



2022年10月15日
第53号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

10月15日号

2022年のノーベル平和賞が物議を醸している。ノーベル平和賞に、旧ソビエトのベラルーシの人権活動家と、ロシアとウクライナそれぞれの人権団体が選ばれた。ウクライナ国内では、喜びの声が聞かれる一方で、ウクライナ政府高官はウクライナへの軍事侵攻を続けるロシアと、それを支持するベラルーシと共同で受賞したことを批判した。他方、ロシア政府は反応しておらず、ベラルーシ外務省報道官は「近年、ノーベル平和賞の決定はあまりにも政治的だ。もはやコメントする気も起きない」と冷やかだ。それぞれの政治的思惑が交錯している。しかし問題は、ロシアとウクライナの戦争は未だ終末を迎えていないことだ。

ノーベル賞の冠名となっているのは、ダイナマイトの発明で鉄工所を兵器産業へと成長させ、一代で巨額の富を得たアルフレッド・ノーベルというスウェーデンの化学者であり発明家である。容易に扱えるダイナマイトはインフラ発展に貢献したが、同時にその発明は戦争の強力化に転化してしまった。その莫大な富を得たノーベルの代名詞は「死の商人」であった。その汚名を払拭し、自らを正当化するために「ノーベル財団」を立ち上げたのだという。その意味で、科学の発展が資本主義経済を躍進させたという光明面によって、戦争という負の側面を覆い隠す。それがノーベル賞の本質ではないだろうか。

ノーベル平和賞で戦争を根絶することはできない。1967年10月21日の労働者や学生によるベトナム反戦の世界的運動が米國をベトナム戦争から引きずり下ろす力になったと言われる。戦争を止めたのは戦争で息子たちを失った家族、人種・男女差別に抗する人々、政治的抑圧や弾圧に抗する人々による世界の団結した力だったのだ。今ある戦争を止めるために、社会や企業の差別と抑圧を許さないために、人類の可能性には決して絶望してはならないのだ。(K・S)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。